

今月のトピックス

インフルエンザの集団感染が見られました。迅速キットで A 型でした。
 腸管出血性大腸菌感染症は 14 件の報告がありました。(8 月 25 日現在)
 デング熱は、7 月と 8 月に計 4 件の報告がありました。すべて東南アジアでの感染でした。
 HIV 感染症が 9 件報告され、うち 6 件は男性同性間性的接触によるものでした。
 流行性耳下腺炎が、依然として過去 5 年間の中でも高めに推移しています。
 手足口病、ヘルパンギーナ等、夏の感染症は落ち着きを見せています。

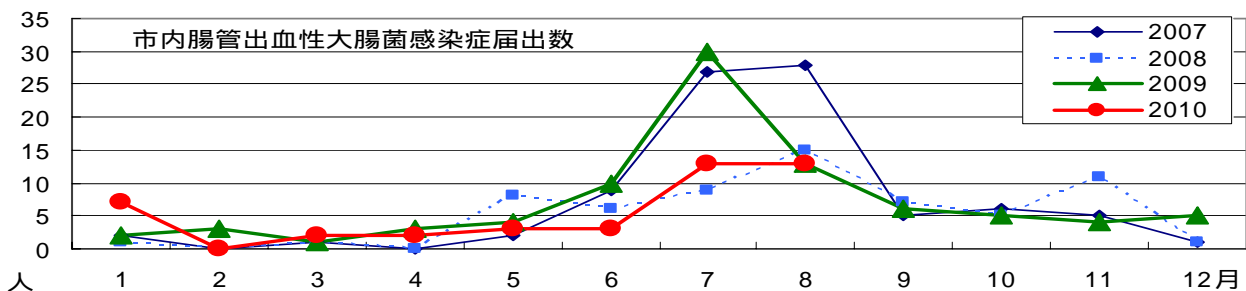
平成 22 年 7 月 19 日から平成 22 年 8 月 22 日まで(第 29 週から第 33 週まで。ただし、性感染症については平成 22 年 7 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成 22 年 週 - 月日対照表

第 29 週	7 月 19 日 ~ 7 月 25 日
第 30 週	7 月 26 日 ~ 8 月 1 日
第 31 週	8 月 2 日 ~ 8 日
第 32 週	8 月 9 日 ~ 15 日
第 33 週	8 月 16 日 ~ 22 日

【全数把握の対象】

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: 8 月に 14 件の報告がありました。例年夏に多いので、これからの季節もまだ注意が必要です。



腸管出血性大腸菌感染症についてはこちらをご覧ください。

横浜市衛生研究所 HP http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/infc_o157_guide.html

- 2 腸チフス: 1 件の報告がありました。推定感染地はインドです。
- 3 デング熱: 4 件(7 月 2 件、8 月 2 件)の報告がありました。推定感染地はラオス 2 件とインドネシア 2 件でした。世界的にも感染が増加しています。1950 年代にフィリピンとタイで最初に報告されてから、1970 年代には 9 カ国で局地的流行が認められ、現在は世界の各地域に流行が広がっています。国内でも今年は 8 月 8 日時点で既に 87 件が報告され、今月中にも昨年の報告数 92 件を上回ると見られています。特に渡航歴の確認できた 66 件のうち 39 件の渡航先がインドネシアであることが注目されています。国立感染症研究所 HP デングウイルス感染情報をご覧ください。 <http://www.nih.go.jp/vir1/NVL/dengue.htm>
- 4 A 型肝炎: 1 件の報告がありました。推定感染地はインドネシアでした。
- 5 アメーバ赤痢: 3 件(うち 1 件は 7 月の報告)の報告がありました。1 件は推定感染地が台湾でした。
- 6 HIV 感染症: 9 件(うち 5 件は 7 月以前の報告)の報告がありました。男性 8 件。同性間性的接触 6 件です。昨年の国内の HIV 感染症 1021 件のうち 88% は日本国籍男性で、さらにその 74% は同性間性的接触が原因です。男性の同性間性的接触は、HIV 感染症のリスクファクターです。HIV は一旦感染すると治癒が困難な疾患です。感染予防をしっかりと行うことが大切です。平成 21 年の全国の HIV 感染症の動向については、国立感染症研究所 HP をご覧ください。 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/31/366/tpc366-j.html>

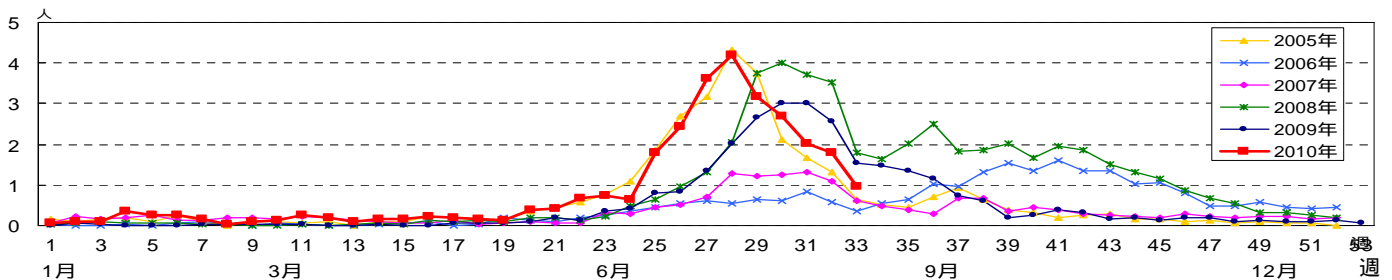
【定点把握の対象】

- 1 **インフルエンザ**: 昨年は8月に定点当たりの報告数が流行のめやすである1を超えましたが、第33週は定点当たり0.04と、市内での流行はみられません。神奈川県域(横浜市、川崎市、相模原市を除く。)では0.13、川崎市は0.00、全国は0.03でした。

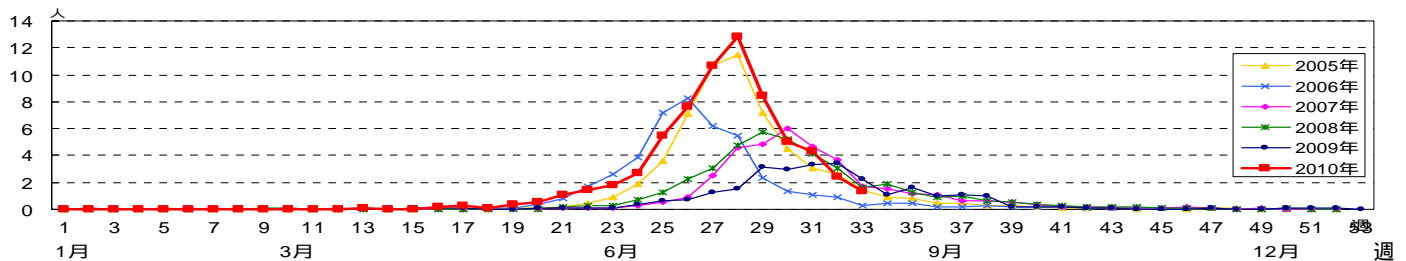
横浜市内での最近の状況

- ・都筑区の1施設で11人の集団感染の報告がありました。迅速キットでA型でした。
- ・横浜市衛生研究所の病原体検査では、8月にはタイからの輸入例で新型インフルエンザが、7月にはフィリピンからの輸入例でA香港が、検出されています。

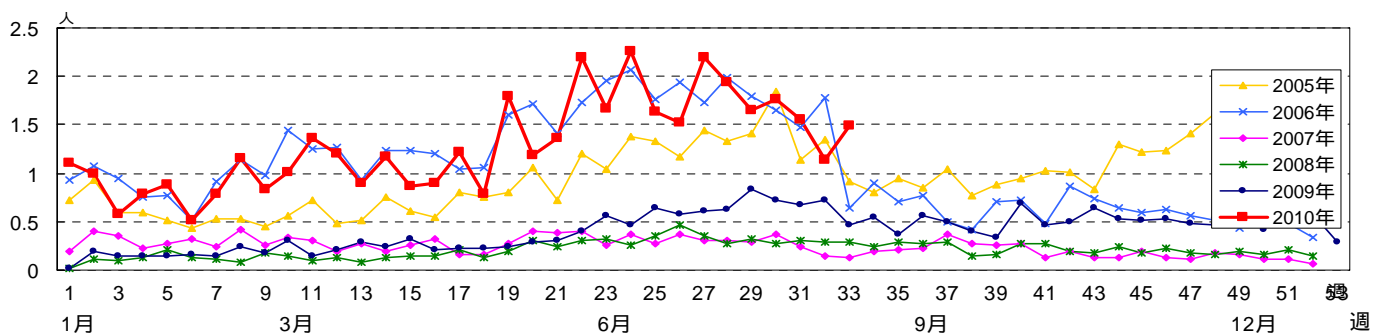
- 2 **咽頭結膜熱**: 第33週は定点当たり0.10で流行はみられません。今年は例年になく、夏の立ち上がりが見られませんでした。
- 3 **手足口病**: 第33週は定点当たり0.96で流行はみられません。第28週に定点当たり4.21とピークを示しましたが、その後順調に漸減しています。神奈川県域では1.61、川崎市は1.80、全国は1.34でした。



- 4 **ヘルパンギーナ**: 第26週に定点当たり7.66で、市内全域で警報域となり、第28週に12.83とピークになりましたが、その後漸減し、第33週は定点当たり1.34で流行はみられません。神奈川県域では1.05、川崎市は1.37、全国は1.32でした。



- 5 **流行性耳下腺炎**: 第19週以降、過去5年と比較して高めに推移しています。第33週は定点当たり1.49と、依然として過去5年と比較してこの時期で最大の報告数です。神奈川県域では1.15、川崎市0.93、全国1.20でした。行政区別では泉区7.33、緑区3.00、神奈川区2.20、瀬谷区2.00が高めです。



- 6 **性感染症**: 性感染症は、診療科でみると産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

8月も例年の傾向と同じです。性器クラミジア感染症が24件(男性8、女性16)、性器ヘルペス感染症は14件(男性3、女性11)、尖形コンジローマは9件(男性3、女性6)、淋菌感染症は8件(男性7、女性1)でした。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>